

お茶の時間

マナーについて

柴田 幹雄 陸自75

マナーとは行儀・作法といったもので、社会生活では、これに従うのが良いとされるが、ルール、規則というほどのものではない。生活のいろいろな場面でマナーは存在する。

駅のエスカレーターでは片側、東京などでは左側に乗り、反対側は急いでいる人のために空けておくのがマナーとされている。ラッシュ時には登りエスカレーターでは左側に長蛇の列ができ、列を避けようとする人は右側を使い歩かねばならない。本当に急いでいる人がどれくらいいるのかわからない。急がない人でも右側に乗ると歩くことになる。急ぐ人のためという思いやりは美しいが、そもそも駅などで急がなくていいように5分早く家を出ればいいだろう、などと思わぬでもない。ステップ上にとどまっている人と、歩く人と接触すると事故にもなりかねず、最近では、片側に乗らず、歩かないで必ず手すりにつかまるように、という表示も出てきている。そもそもエスカレーターは歩くことを前提に設計されていいという。両側に均等に乗っ

たほうが輸送効率も良いと思うのだが、通勤で使うエスカレーターは依然として片側に寄っている。転倒事故など起こらなければよいのだが。

もう一つ。電車内でのマナー。

車内で携帯電話の通話は遠慮するものとされている。騒音で電話の音が聞き取りにくく、つい大声になってしまふ。へそ曲がりの私は、自分が大声を出しても相手の声が聞こえるわけではないから、小声で話せばいいだけだ。使用を遠慮せよというほどのことではないと思ったりする。

車内でおしゃべりをする人たちはいるが、小声の会話で他人に気を使っている限り響きを買うこともない。

携帯電話だと相手も見えず、電話越しの会話に集中し、他人の存在を忘れる。それが傍若無人、人前をばからず勝手なことをする、という態度になつてしまふ。これが何となく不愉快というところもあるのではないかと。人前をばからずといえは、電車内でお化粧をする女性もしかりと思うのだが、これを声高に言うのと「誰にも迷惑をかけていないでしょ」とあちこちから矢が飛んできそうなので黙っている。この手の話は、大勢に従うをよしとする知恵は身に着いた。